

目 次 (平成30年度入学生用)

学部基礎科目 (1年次配当)

経済数学入門イ	1	経済数学入門ロ	2
経済史入門	3	簿記入門イ	5
簿記入門ロ	6	原価会計論	8
現代企業論イ	9	経営管理論	10
統計学入門イ	11	統計学入門ロ	12
統計学	13	社会調査法	14
地域調査法	15		

学部専門科目 (1年次配当)

グローバル社会概論	16
-----------	----

自由科目 (1年次配当)

(特) 海外研修(アメリカ)	17	(特) 海外研修(フランス)	18
(特) 海外研修(台湾)	19	(特) 海外研修(韓国)	20

教職課程科目 (教職履修予定者に限り履修可)

経済学入門	22
-------	----

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310121) 経済数学入門イ Introduction to Mathematics for Economics	科目区分	時間割 後期水1	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 星野 良明	関連授業科目	ミクロ経済学I・II, マクロ経済学I・II	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 ミクロ経済学・マクロ経済学およびその関連科目を学習する上で必要となる基礎数学(特に微分と偏微分)について、証明よりも公式と解法に重点を置いて講義します。高校数学の復習からはじめて、経済学における活用例を交えながら解説します。			
授業の目的 経済学で使う微分と偏微分の基礎を理解する。経済学における記号・数式・グラフの使い方を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 微分と偏微分の意味を説明することができる。 2. 経済学で使う基本関数について、微分や偏微分を計算できる。 3. 経済学で使う基本関数について、最適化問題を解くことができる。			
成績評価の方法と基準 宿題(30%)と期末試験(70%)で評価します。なお、小レポートや確認テストなどを追加的に行い、成績評価の(未提出でも減点なしの)加点材料として用いる場合があります。詳細は初回授業で説明します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】授業は主に板書によります。必要に応じてプロジェクタや配布物を用います。			
【授業計画】進行状況により若干の変更をする可能性があります。			
1. 経済学で扱う基本関数 (第1～3回) 2. 微分とその応用 (第4～8回) 3. 等高線と偏微分 (第9～12回) 4. 2変数最適化問題 (第13～15回)			
【自学自習に関するアドバイス】講義中に復習のために演習問題を出します。予習は不要ですが、毎回復習してわからないことをなくすことと、演習問題を解くことが必要です。また理解を深める上で、エクセルなどPCソフトで関数グラフを描いてみることも有用です。			
教科書・参考書等 【教科書】使用しません。 【参考書】 ・丹野忠晋(2017)『経済数学入門：初歩から一歩ずつ』日本評論社。 ・白石俊輔(2014)『経済学で出る数学：ワークブックでじっくり攻める』日本評論社。 ・尾山大輔・安田洋祐(2013)『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』改訂版, 日本評論社。			
オフィスアワー 木曜日4時限目(予定)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 最初のうちは高校の復習が多くなりますが、油断せずに継続して出席することが大切です。			

ナンバリングコード B1ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310122) 経済数学入門 Introduction to Mathematics for Economics Basic Mathematics for Economics	科目区分	時間割 後期水1	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 ラナデ	関連授業科目	ミクロ経済学・マクロ経済学およびその関連科目	
	履修推奨科目	履修にあたって必要とされる科目はありません。	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 経済学ではツールとして数学が積極的に活用されています。しかしこの点が経済学を学習する際の障害になる場合も多いようです。そこでこの講義では、経済学を学習するための数学的トレーニングとして微積の基本的内容を、経済学における活用例を素材に学びます。 高校数学の復習から始め、経済学では数学をどのように使うのかを例を交えながら解説します。			
授業の目的 授業の目的・達成目標 1. 微分と積分の基本的内容の学習を通じて、経済学における記号・数式・グラフの使い方を身につけること。 2. 数学への苦手意識がある人は、それを解消すること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 微分と偏微分の意味を説明することができる。 2. 経済学で使う基本関数について、微分や偏微分を計算できる。 3. 経済学で使う基本関数について、最適化問題を解くことができる。			
成績評価の方法と基準 宿題&class-work (4割) と期末試験 (6割) により評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業及び学習の方法 授業は主に板書によります。宿題&class-workとして演習問題を課します。 予習は不要ですが、毎回復習してわからないことをなくすことと、演習問題を解くことが必要です 1. 微分-積分の基礎 (3回) 2. 複変数の関数 (4回) 3. 偏微分 (4回) 4. 全微分 (1回) 5. 最大化、最小化 (4回) 6. まとめ (1回)			
進行状況により、変更をする可能性があります			
教科書・参考書等 使用しません 参考書については開講時に紹介します。			
オフィスアワー 毎日18時以降			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 履修上の注意は初回授業で説明します。			

ナンバリングコード B1ECN-becE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 331010) 経済史入門 Introduction to Economic History	科目区分	時間割 前期月2	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 becE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 山本 裕	関連授業科目	日本社会経済史、ヨーロッパ社会経済史、経営史	
	履修推奨科目	日本社会経済史、ヨーロッパ社会経済史、経営史	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 人々の経済的営みの集積の果てに、今日の私達を取り巻く経済的環境が形成されている、という理解に立った時に、それでは、どのようにして、今日の経済的環境は形成されてきたといえるのだろうか。 本科目は上述した問いに対する学術的接近を、経済史という学問領域より行うこととする。具体的には近代という時代に着目して、経済史の概説を講義する形態をとって、接近していく。その際、(1)近代の経済を、ヨーロッパを中心として、①人口、②市場、③工業化、という三点に着目してその発展を考察し、近代以前の時代との連続・非連続的側面についても併せて考察する。(2)19世紀の世界経済をヨーロッパ・アメリカ・アジア・日本の関係に力点を置いて、大量生産社会への移行と国際経済の生成・発展に留意しながら考察する。(3)20世紀の世界経済を、二度の世界戦争と民族独立運動の展開に留意しつつ、ヨーロッパ・アメリカ・アジア・日本の経済的関係の推移に力点を置きながら考察する。以上のことがらに焦点を合わせて講義を進めていく。			
授業の目的 近代という時代を中心とした経済史について、その基礎知識の習得を目的とする。今日、私達は経済のグローバル化を当然のものとして理解している。しかし、人口の増大、市場圏の拡大、機械制大工業による大量生産の実現等が世界の各地で果たされた結果、ようやく19世紀に国際経済システムが生成されるに至った。以上述べたように、私達が常識として理解している経済的諸問題を、その端緒から帰結に至るまで歴史的に考え、理解していく。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 近代経済における地域的多様性を説明できる。 2) 一国史的枠組ではなく、諸国家あるいは諸地域間の関連性の中で社会と経済の歴史を解釈して、具体的に説明できる。			
成績評価の方法と基準 期末試験(80点)と、2回の授業レポート(計20点)で成績を判断するが、任意の読書レポートを提出した者には、加点を行う(最大で20点)。また、突発的に授業アンケートを課す可能性があるが、その際、回答者には適宜、若干の可点を行う(優れた意見の提出者には、更に加点する)。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 テキストの内容をより深く理解するためのレジュメを配布する(moodleに毎回のレジュメをアップロードする)。毎回、講義内容について、自筆ノートを作成しまとめなおすことを推奨する(なお、期末試験では、自筆ノートのみ持込可とし、配布資料のノートへの貼り付けを不可とする)。講義期間中、2回、レポートを課す。 以下の計画に沿って講義を展開する予定だが、履修者諸君の理解度等を勘案し、期待する理解度に到達していないと判断した場合には、より、ゆっくりと時間をかけて講義を行うことで、いくつかの講義単元を行わない可能性があることをあらかじめお断りしておく。 (1)イントロダクション: 経済史を学ぶ意味・経済史の学習方法 (2)～(3)「産業革命」(1)「産業革命」とは何だったのか? (※講義回数2回) (4)～(5)「産業革命」(2): 「産業革命」前史—近世ヨーロッパ経済の諸相とプロト工業化の時代 (※講義回数2回) (6)「産業革命」(3): ヨーロッパにおける都市化と工業化①イギリスの事例 (7)「産業革命」(4): ヨーロッパにおける都市化と工業化②フランス・「ドイツ」の事例 (8)「産業革命」(5): 新大陸の工業化と都市化 (9)国際経済の展開と帝国主義の時代(1): 「大不況期(1873-96)」における産業的競争激化 (10)国際経済の展開と帝国主義の時代(2): 国際経済の生成と発展 (11)国際経済の展開と帝国主義の時代(3): 「帝国主義の時代」におけるヨーロッパ・アジア諸国の経済的動向 (12)20世紀の世界経済(1): 第一次世界大戦～両大戦間期における諸国の経済的動向 (13)20世紀の世界経済(2): Managed Economyの時代—世界大恐慌のインパクトと1930～40年代前半における諸国の動向— (14)20世紀の世界経済(3): 第二次世界大戦後の世界経済 (15)講義の小括 予習については、各回の講義を受講する前に、講義範囲について教科書の指定範囲を読解して、分からない用語等をメモし、調べておく。また、論旨で分からないところが何処なのか、事前に各自が把握しておく。復習については、各回の講義終了後に、講義内容を自筆ノートでまとめ直しておく(前述の如く、期末試験には自筆ノートのみ持込可とし、配布資料は持込不可とする)。 なお、本科目の講義内容は、高校の歴史系科目との接続を考慮している。 高校時代購入した世界史の図説集を予習・復習時に用いることで、更なる理解が可能になる。特に世界史の図説集として、『最新世界史図説タペストリー15訂版』(帝国書院、2017年、940円[税込]。※古い版のものでも問題ありません)を推奨する。			

教科書・参考書等

- ・【教科書】：岡田泰男編『西洋経済史』（八千代出版、1995年、3200円+TAX）。生協の書籍部にて購入のこと。
 - ・【参考書】：長岡新吉・太田和宏・宮本謙介編『世界経済史入門－欧米とアジア』（ミネルヴァ書房、1992年、3200円+TAX）は、通読を望む。
- また、各回の講義における配布資料には、参考文献を記載する。

オフィスアワー

水曜日4限・5限（ただし、事前にメール等もらえれば、適宜対応する）。研究室は、幸町南キャンパス3号館3階13室。
メールアドレスは、yamamoto@ec.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目は教科書を指定するが、教科書の内容以外についても講義を行う。その旨、了承した上で履修されたい。講義で扱った内容について、自ら問いを立てるような積極的な受講態度を望みたい。

ナンバリングコード B1BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード：320312) 簿記入門イ Introduction to Bookkeeping	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 指定学籍番号の1年
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目	会計学総論, 株式会社社会計, 監査論	
	履修推奨科目	会計学総論, 株式会社社会計, 監査論	
学習時間 90分×15回+自学自習			
授業の概要 本講義は入門レベルの商業簿記を講義する。受講者としては簿記初心者进行想定している。簿記とは、企業の経営活動を一定のルールにしたがって帳簿に、記録・計算・整理する技術である。簿記を学ぶことは、会計学を学ぶための基礎となるため、会計学に関心のある学生は、ぜひ受講してもらいたい。			
授業の目的 入門レベルの複式簿記の習得を目的とする。(知識・理解, 問題解決・課題探究能力)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
複式簿記の基本的原理を理解し、習得することができる。(知識・理解, 問題解決・課題探究能力)			
成績評価の方法と基準 期末試験による。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・講義には必ず電卓を持参すること。 ・簿記をマスターするためには、とにかく演習問題を繰り返し解くことが必要である。このため、教科書等を利用した自学自習が極めて重要である。 <p>第1回 簿記の意義 第2回 財産の変動と貸借対照表 第3回 収益・費用の発生と損益計算書 第4回 貸借対照表と損益計算書 第5回 簿記上の取引 第6回 取引の仕訳と勘定への記入 第7回 試算表の作成 第8回 精算表の作成 第9回 現金と当座預金 第10回 商品と商品売買益 第11回 掛け売りと掛け買い 第12回 債権と債務 第13回 決算(1) 第14回 決算(2) 第15回 財務諸表の作成</p>			
教科書・参考書等 田中弘『わしづかみシリーズ 簿記を学ぶ 経済常識としての簿記入門』税務経理協会, 2010年, 1800円(購入必須)。 オフィスアワー 授業後随時受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業に毎回出席すること。復習を怠らないこと。教科書を必ず購入すること。			

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320313) 簿記入門 Introduction to Bookkeeping	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 指定学籍番号の1年、 2年以上、その他
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目	原価会計論および会計関連の授業	
	履修推奨科目	原価会計論	
学習時間	講義90分×15回+自学自習		
授業の概要 <p>簿記や会計は、現在も、ビジネスの場面では「共通言語」として使われています。そして、その役割が現代では昔以上に重要になってきています。なぜだと思いますか？その主な要因の1つは、何と言っても世界へ向けて日本の企業が情報を発信しなければならなくなったからです。そこでは、世界の標準にそって物事が進められ、その成果も世界の報告基準にそって公表されます。その報告基準が(国際)会計基準であり、その会計基準にそって企業の活動を記録していく方法が「簿記」なのです。つまり、「簿記」を学習することは、ビジネスの共通言語を理解するためには欠かせない要素なのです。</p> <p>この講義では、個人商店の簿記・会計処理に焦点を当てて、簿記の基本要素である「仕訳」、「転記」および「帳簿・勘定の締め切り方」を学習していきます。簿記は理論だけではなく、技術的な面が非常に重要なので、授業中の演習や宿題を通して、みなさんには実際に手を動かして技能として覚えてもらう機会が多くなります。なお、いきなり個人商店の簿記・会計処理の全てを学ぶことは難しいので、「基本」となるトピックを中心に学習していくことにします。</p> <p>以上の学習を通じて、基本的な簿記の能力を身に付けてもらいます。</p>			
授業の目的 <p>どのような職業に就いても、自分の会社や部署、担当している仕事の状況は、お金(会計)に関する情報で把握しなければなりません。そのための基本となる、お金(会計)に関する情報がどのように作られるのか、つまりこの授業の目的は、「会計情報の「作り方」である複式簿記の基本的な仕組みと処理を理解し、複式簿記の技能(スキル)を身に付けること」です。</p>			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 複式簿記の原理を理解し、仕訳、転記および帳簿の締め切りができる (2) 個人商店の商業簿記の基本的な処理を理解し実践できる			
成績評価の方法と基準 期末テスト (ただし、60点に満たない場合には、理解度クイズの得点を加算し、60点以上になれば「可」のみを与える。)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 [授業の方法] 口述筆記、板書、演習、理解度クイズ [授業計画(予定)] (第1週) ガイダンス (第2週) 複式簿記の基礎①(簿記とは?、貸借平均の論理、残高) (第3週) 複式簿記の基礎②(資産・負債・純資産(資本)・収益・費用とは?) (第4週) 複式簿記の基礎③(精算表・損益計算書・貸借対照表の作り方) (第5週) 複式簿記の基礎④(仕訳と転記) (第6週) 複式簿記の基礎⑤(振り替えとは?、決算とは?) (第7～9週) 複式簿記の基礎⑥(決算手続きと帳簿の締め切り) (第10週) 帳簿体系の基礎+個別取引(現金、現金出納帳、当座預金) (第11週) 商品取引(分記法と3文法、売掛金元帳・買掛金元帳) (第12週) その他の債権・債務①(未収金・未払金、固定資産、売買目的有価証券など) (第13週) 手形取引と受取手形記入帳・支払手形記入帳 (第14週) 決算整理(減価償却、有価証券の時価評価など) (第15週) 3分法による決算の処理 [自習学習に関するアドバイス] <基本> (第1～15週) 毎週、理解度クイズを提出してもらいます。これを解くことなどを通して復習して下さい。 (第1週) この授業を学ぶ意味と大学で学ぶことを、配布資料をもとに考えてみて下さい。 (第2～5週) 簿記で用いる専門用語、表などへの記入の仕方を復習して下さい。 (第6週) 仕訳と転記を考えずにできるまで、繰り返し復習して下さい。 (第7週) 振り替え手続きと決算の流れを復習して下さい。 (第8～9週) 決算の手続きと帳簿の締め切り方を復習して下さい。 (第10～15週) 帳簿体系を理解し、基本的な個別取引の処理や帳簿への記入ができるように復習して下さい。			

教科書・参考書等

[教科書] (予定)宮脇秀貴「商業簿記の基礎」セキ株式会社 2018

[参考書] 醍醐 聰「明解簿記 上」一橋出版、新井益太郎・稲垣富士男「新会計 (新訂版)」実教出版

オフィスアワー

毎週水曜日「15:30~17:00」(ただし、会議などでいない場合もある)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

必ず予習・復習を行うこと。特に復習は欠かせません。簿記は、半分が「理論」で、残り半分が『技能』です。また、積み上げ式なので前回の内容が理解・実践できていないと授業の中盤以降はついてこられなくなります。前回の内容が確実かつスピーディーにできるようになってから次回の授業に臨んで下さい。そうでなければ間違いなく単位を落とします。

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 321040) 原価会計論 Advanced Bookkeeping	科目区分	時間割 後期火4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目	簿記入門および会計学・経営学関連の授業	
	履修推奨科目	簿記入門	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 車や電気製品の原価はどのように決められるのだろうか？という疑問を持ったことはありませんか？現代では、製造業だけでなく、サービス業においても、原価をマネジメントすることがたいへん重要となっています。 本講義では、原価の計算の仕方、つまり原価計算の基本的な方法を、複式簿記を用いて説明していきます。なぜなら、通常、原価計算は、複式簿記の原理に基づく工業簿記の中で用いられており、この有機的な関連を学習することは、企業を会計的な側面から観察する時に非常に役立つからです。具体的には、工業簿記・原価計算のしくみの基礎とその記帳処理を学習していきます。			
授業の目的 「原価（コスト）」の理解は、日常生活だけでなく経営学やマーケティング、会計学を学んでいく上でも重要となります。なぜなら、全ての活動には「原価（コスト）」が必ず関わってくるからです。したがって、この授業の目的は、「工業簿記と原価計算の基本原則を理解し、実践できる」となります。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 複式簿記の原理を理解し、仕訳、転記および帳簿の締め切りができる。 (2) 製造企業の中で行われる工業簿記のしくみを理解し実践できる。 (3) 基本的な原価計算の理論を理解し計算ができる。			
成績評価の方法と基準 期末テスト (ただし、60点に満たない場合には、理解度クイズの得点を加算し、60点以上になれば「可」のみを与える。)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 [授業の方法] 口述筆記、板書、プリント配布、理解度クイズ [授業計画] (第1週) ガイダンス (第2～4週) 複式簿記の基礎 (第5～6週) 企業活動と工業簿記 (第7～11週) 原価の構成要素と記帳処理 (第12～13週) 総合原価計算と記帳処理 (第14・15週) 個別原価計算と記帳処理 [自習学習の] <原則> 毎週、理解度クイズの提出があるので、それを解くことなどを通して、しっかり復習を進めて下さい。 (第1週) この授業の位置づけを理解して下さい。 (第2～4週) 複式簿記の基礎の復習です。専門用語、表への記入の仕方、仕訳、転記、振り替え、決算手続きなど、複式簿記の総復習です。 (第5～6週) 工業簿記・原価計算の目的や流れを復習して下さい。 (第7～11週) 材料費、労務費および経費の詳しい処理を復習して下さい。 (第12～13週) 総合原価計算の原理と計算を復習して下さい。 (第14・15週) 個別原価計算の原理と記帳処理を復習して下さい。			
教科書・参考書等 [教科書] (予定) 宮脇秀貴「工業簿記の基礎(三訂版)」セキ株式会社, 2018年 [参考書] 溝口一雄「例解工業簿記」中央経済社、溝口一雄「最新原価計算講義」中央経済社、岡本 清「原価計算」国元書房			
オフィスアワー 毎週水曜日「15:30～17:00」(ただし、会議などでいない場合もある)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 必ず予習・復習を行うこと。特に、復習は欠かせません。簿記は、半分が「理論」で、残り半分が『技能』です。また、簿記は積み上げ式なので前回の内容が理解・実践できていないと授業の中盤以降はついてこられなくなります。前回の内容が確実かつスピーディーにできるようになってから次回の授業に臨んで下さい。			

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322131) 現代企業論イ Contemporary Business	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 張 暁紅	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本講義では、企業はいかなる形態をもつのか、どのように経営活動を行っているのか、現代企業の社会における責任とはなにか、などの問題について学習する。			
授業の目的 「企業」という組織形態に対する認識を高めつつ、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、企業と社会との関係の知識を得る。 日頃企業に関するさまざまな話題に関心を持ち、講義内容とリンクさせて思考する習慣をつけること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
現代企業に関わる基礎的知識と理論が習得できる。 新聞やニュースなど、日常的に接する現代企業の話題を講義内容とリンクさせて思考し、分析することができる。			
成績評価の方法と基準 期末試験70%、レポート30%で評価を行う。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：現代企業論講義で何を学ぶのか？ 2. 企業とは何か？ 3. 企業の諸形態 4. 株式会社としての企業① 5. 株式会社としての企業② 6. 企業の社会的責任 7. 欧米諸国の企業経営①歴史の変遷 8. 欧米諸国の企業経営②コーポレート・ガバナンス 9. 日本の企業経営①歴史の変遷 10. 日本の企業経営②コーポレート・ガバナンス：いわゆる日本の経営 11. 日本の企業経営③コーポレート・ガバナンス：バブル崩壊後 12. 日本企業と経済環境の変化 13. 日本の中小企業の現状と課題 14. 企業とイノベーション 15. まとめ 定期試験			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。レジュメを配布する。 参考書：①三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論』第3版、有斐閣アルマ、2012年 ②佐久間信夫編著『よくわかる企業論』第2版、ミネルヴァ書房、2016年			
オフィスアワー 火曜日の三時限目。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 私語などほかの受講生の迷惑をかける行為はしないこと。			

ナンバリングコード B1BSN-bcxE-20-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320201) 経営管理論 Principles of Management	科目区分	時間割 前期木5	対象年次及び学科 1～経済学部(他学部 生の履修は不可)
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 細見 正樹	関連授業科目 関連する科目 履修推奨科目	経営・イノベーション、会計・ファイナンスに	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 経営管理論とは、企業や官公庁といった組織で、どのように管理・運営をしていくかについて学ぶ学問である。組織がどのようなメカニズムで動いているかについて学ぶと、クラブ・サークル活動で組織に所属したり、将来企業や官公庁で働くみなさんにとっても役立つ。この講義では、教科書および補助資料を用いて、経営管理の全体像、組織をどのように管理するか、外部環境とどのように関わるか、日本の経営の特徴の順で説明する。			
授業の目的 本講義では、初めて経営学を学ぶ学生を対象に、経営管理論についての全体像や専門知識を習得してもらうことを目的としている。幅広い経営学に関するトピックを概観し、今後経営学を専門的に学習する橋渡しとなることを目的としている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
経営管理論についてどのようなトピックがあるか説明できる。 経営管理論の重要なトピックについて簡単に説明できる。			
成績評価の方法と基準 期末試験(75%)と講義中に課する小レポート等(25%)の合計で評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業及び学習の方法】 教科書に沿って講義を進め、参考資料として補助プリントを使用する。ただし、学習効果を高めるため、講義内容を増減する可能性はある。 【授業計画】 (1)経営管理の全体像 (2)企業 (3)マネジメントの誕生 (4)組織マネジメントの展開 (5)モチベーション (6)リーダーシップ (7)組織構造のマネジメント (8)組織文化 (9)経営組織の環境適応 (10)企業戦略 (11)競争戦略 (12)イノベーション (13)日本の人材マネジメント (14)日本の生産管理 (15)日本の財務管理とコーポレートファイナンス			
教科書・参考書等 上野恭裕・馬場大治編(2016)『経営管理論』中央経済社			
オフィスアワー 金曜日 4限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 最初の講義で説明するが、教科書および補助資料を用いて講義するので、印刷の上講義に臨むこと。 普段から、ニュースや新聞に目を通しておくと経営学に関する関心が高まります。また、クラブ・サークル内の組織や組織にいる人についても、学んだ内容をあてはめてみると学習内容が理解しやすくなります。 私語は厳禁とする。			

ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310141) 統計学入門Ⅰ Introduction to Statistics	科目区分	時間割 前期水1	対象年次及び学科 指定学籍番号の1年
	水準・分野 B1STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 大野 拓行	関連授業科目	情報リテラシー	
	履修推奨科目	統計学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 社会科学を学ぶ際には、これまでに蓄積されてきた理論を学習するとともに、現実のデータから有益な情報を見出す方法を習得することが大切である。データの特徴を客観的に記述したり、データからの推論を客観的に行う際には、統計的手法が役立つ。この講義は経済学部が、専門教育や社会に出てから必要となるであろう基本的な統計学の知識の習得を目的とする授業である。数学の基礎知識は特に必要はないが、四則演算を中心とした計算は頻繁に出てくるので、こつこつと努力する必要がある授業である。			
授業の目的 記述統計と推測統計の基礎を学習し、データの持つ情報を読み取り判断の拠り所を得るための方法を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・データを整理して、分布の中心や広がりを理解できる。 ・基本統計量により、分布の特性を読み取る能力を養う。 ・正規分布の重要性を理解し、利用できるようになる。 ・統計的推定の基礎を修得する。 			
成績評価の方法と基準 授業における演習、Moodleの小テスト、期末試験などを総合的に見て評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 (1) 授業の概要 (2) データの整理 1 (3) データの整理 2 (4) 基本統計量 1 (5) 基本統計量 2 (6) 分布の形 (7) 正規分布 1 (8) 正規分布 2 (9) 正規分布 3 (10) 標本の分布 1 (11) 標本の分布 2 (12) 推測統計の基礎 (13) 母集団の推定 1 (14) 母集団の推定 2 (15) 母集団の推定 3 【自学自習に関するアドバイス】 練習問題を丁寧に解くこと。			
教科書・参考書等 特に使用しない。講義用資料をMoodleに掲載する。			
オフィスアワー 火曜日 4 限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業内容は連続しているので、欠席すると理解できなくなります。 Moodleを利用します。			

ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lb2 授業科目名 (時間割コード: 310142) 統計学入門 Introduction to Statistics	科目区分	時間割 前期水1	対象年次及び学科 指定学籍番号の1年、 2年以上、その他
	水準・分野 B1STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lb	単位数 2	
担当教員名 横山 佳充	関連授業科目		
	履修推奨科目	統計学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 統計学は経済にかかわらず、他の分野でも必要とされる分野です。教科書は経済の例や表計算ソフトであるExcelのソフトウェアを用いて説明を行っています。授業では経済学科以外の学生を対象に、統計学の考え方を理解できるように解説します。			
授業の目的 記述統計と統計的推測の基礎を学習し、データの持つ情報を読み取り判断の拠り所を得るための方法を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> 基本統計量を計算し、分布特性を読み取る能力を養う。 度数分布を作成し、分布の中心や広がりを理解できる。 確率分布（基本的に正規分布）が使えるようになる。 サンプリングによる統計的な推定の基礎を理解できるようになる。 			
成績評価の方法と基準 基本的には期末試験の成績で判断しますが、レポートの提出や小テストの結果なども加味します。詳細は第1回目の講義にて説明しますが、基本的に本試験の得点ウェイト7に対し、それ以外が3程度です。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 プロジェクターによる講義形式、時間に余裕があれば演習時間を確保し理解に努めるようにしたい。			
1 授業の概要 2 データの整理 1 3 データの整理 2 4 基本統計量 1 5 基本統計量 2 6 分布の形 7 正規分布 1 8 正規分布 2 9 正規分布 3 10 標本の分布 1 (ランダムな標本と平均) 11 標本の分布 2 (ランダムな標本と平均) 12 推測統計の基礎 13 母集団の推定 1 14 母集団の推定 2 15 母集団の推定 3			
<p>授業の進行程度に合わせても変わりますが、「ランダムな標本と平均」の部分までは確実に終了する予定です。「母集団の推定」については他授業『統計学』につながる部分であるので、可能な限り解説する予定です。</p> <p>なお、授業等に必要な配布物は指定の方法でファイル形式で配布します。詳しくは第1回目の授業で説明します。</p>			
教科書・参考書等 『教養 統計学』、森棟公夫、新世社、2012年、¥1700+税			
<p>なお、授業にあたって資料等必要とする場合があるので、授業前までに必要な資料を印刷すること。資料の取り出し方に関しては第1回目に説明します。</p>			
オフィスアワー 火曜日 4時限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業中私語を慎むなど、他の学生に迷惑をかけないよう最低限のルールは守ること。また、授業中、許可なくスマホ等を使用しないように。			

ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310151) 統計学 Statistics	科目区分	時間割 後期末5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 大野 拓行	関連授業科目	統計学入門、情報リテラシー	
	履修推奨科目	統計学入門	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 統計学入門を履修済みの学生に対して、統計的仮説検定、クロス集計表の分析、相関・回帰分析などを講義し、統計学入門と合わせて、統計的分析手法を一通り学習させる。2年次配当の計量経済学、3年次配当の経済統計を履修する際に前提となる授業である。			
授業の目的 統計学入門で学んだ記述統計と推測統計の基礎をもとに、それを発展させた内容を学習することで、データの持つ情報を読み取り判断の拠り所を得るための方法をより詳しく理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・正規分布を用いた推定、検定を習得する。 ・t分布を用いた推定、検定を習得する。 ・クロス集計表による分析を習得する。 ・独立性のカイ2乗検定を習得する。 ・相関分析を習得する。 ・単純回帰分析を習得する。 			
成績評価の方法と基準 演習、Moodleの小テスト、期末試験などを総合的に見て評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1) 統計学入門の復習 (記述統計) (2) 統計学入門の復習 (正規分布と中心極限定理) (3) 仮説検定の基本概念 (帰無仮説、検定統計量、有意水準、棄却域) (4) 正規分布を用いた仮説検定 (5) t分布 (6) t分布を用いた推定と検定 (7) カイ2乗分布と検定 (8) 検定に利用されるExcel関数 (9) クロス集計表による分析 (特化係数) (10) 独立性のカイ2乗検定 (11) Excelによる実習 (12) 相関分析 (13) 単純回帰分析 (14) Excelによる実習 (15) まとめ			
【自学自習に関するアドバイス】 練習問題を丁寧に解くこと。			
教科書・参考書等 特に使用しない。講義用資料をMoodleに掲載する。			
オフィスアワー 火曜日 4限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業内容は連続しているので、欠席すると理解できなくなります。 Moodleを利用します。			

ナンバリングコード B1SCL-bceE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332064) 社会調査法	科目区分	時間割 前期木4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1SCL	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目	文化人類学	
	履修推奨科目	文化人類学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 私たち人間は「社会」の中で生きており、社会集団に属し社会現象や人間の価値観に関連する問題にも遭遇します。とりわけ今日、グローバル化する現代社会の中で、私たちが生きる日本社会のみならず、世界の多様な人びとが生きる「社会」を様々な角度からとらえ、研究の題材とすることも不可欠です。しかしそもそも、「社会」とは何でしょうか。それは、どのようにしてとらえることができるのでしょうか。 本講義では、第一線で活躍する研究者が、社会または社会集団内における社会事象を実証的にとらえる方法を解説しながら、フィールドワークの「現場」から捉える基本的な調査方法について学びます。			
授業の目的 「社会」を対象とする社会科学の分野では、多種多様な社会調査の方法が開発され、発展してきました。本講義では社会調査がますます重要視される中で、第一線で活躍する研究者が、社会調査の歴史や具体的事例、「社会」にフォーカスするための調査方法を紹介し、調査をする上での倫理・心構えなど、社会調査に関する基礎的事項を講義します。 学生が、社会調査の歴史とその研究蓄積・方法を学ぶことで、自ら社会調査を企画・設計できるように、基本的な知識と「社会」をとらえ、日本と世界を見渡す姿勢を身につけることを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 社会調査の基本的考え方、および社会科学の各分野の基本概念を簡潔に説明できる。 2. 社会調査のプロセスを具体的に述べることができ、実際に基礎的な調査を実施することができる。 3. 調査倫理の問題を踏まえつつ、社会調査の意義について理解し説明することができる。			
成績評価の方法と基準 平常点 (出席、リアクション・ペーパー)、授業中に行う小テスト (確認テスト)、学期末の筆記試験をもとに成績を総合評価する。無断欠席5回で自動的に「不可」となるので注意すること。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1週 インTRODクシヨン—社会調査の前提となる、「社会」とはそもそも何か？ 第2週 社会調査とは何か？ 第3週 研究と社会調査—社会調査の源流：人口調査、貧困調査、国勢調査 第4週 社会調査の対象と方法 第5週 質的調査(1) 質的調査の種類と考え方—シカゴ学派社会学と民族誌の系譜文化人類学 第6週 質的調査(2) インタビュー調査 第7週 質的調査(3) フィールドワークの方法 第8週 質的調査の方法と実例—風水とはなにか？風水師に「風水宝地」を聞き出す方法 第9週 中国朝鮮族に対する量的調査と質的調査 第10週 アルゼンチン・ユダヤ・コミュニティにおける民族誌的調査 第11週 日本の農山漁村における社会調査 第12週 観光振興・地域活性化に関わる調査① (地域活性化編) 第13週 観光振興・地域活性化に関わる調査② (観光振興編) 第14週 社会調査と現代社会 一個人情報保護と調査倫理— 第15週 まとめ			
教科書・参考書等 【教科書】 特になし。適宜資料を配布します。 【参考書】 佐藤郁哉『社会調査の考え方 (上) (下)』東京大学出版会、2015年、各3200円＋税。 小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社、2010年、3000円＋税。 日本文化人類学会 (監修)『フィールドワーカーズハンドブック』世界思想社、2011年、2400円＋税。 菅原和孝 (編)『フィールドワークへの挑戦』世界思想社、2006年、2300円＋税。 その他、授業中に紹介します。			
オフィスアワー 火曜日12時から13時 南キャンパス2号館3階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ※身近な社会現象を社会調査の目でみる姿勢を心がけること。 ※進行状況に応じて内容を調整することがあります。 ※授業中にリアクション・ペーパーの執筆や小テスト (確認テスト) を課す回がある。 ※授業で紹介する参考文献をもとに自主的に研究するよう努めてください。			

ナンバリングコード B1GE0-cbeE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 332065) 地域調査法 GIS Research Methods GISの基礎から応用まで	科目区分	時間割 前期金5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1GE0	DP・提供部局 becE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 金 徳謙 (非常勤講師)	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 政府が提供する各種統計データを利用したり、直接フィールドに出かけ調査したりして、(観光) 地域を分析した結果を分かりやすく表現するため、多くの場合、表やグラフなどが用いられます。この授業では、それらに加え、GISによるデータの表現や分析の方法について学びます。本授業では、空間的な視点から調査する新しいツールを、概念から始まり使い方までをとりあげ、実践的に学びます。 * Geographic Information Systemは地理情報システムといわれ、空間(地球上の場所)を調べる最新の手法です。近年、観光地の調査やマーケティングなど、様々な領域で利用されています。			
授業の目的 本授業を受講することにより、GISを用いた調査能力および空間的思考方を身につけることができます。地域振興などの自治体や起業など、組織の意思決定はもちろん、一般企業におけるマーケティングなどのため、各種専門的な調査分析は欠かせません。授業では、このような場面に活用できる調査分析手法を学びます。具体的には、空間的視点から地域を分析するGISを、基礎概念から始まり実践的な調査分析ができるレベルまで学びます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
GISに関連する用語の意味が理解でき、正しく使うことができる。 デジタルマップを作成することができる。 国勢調査やその他の統計データをGISで表現することができる。 GISを用いて地域の分析ができる。			
成績評価の方法と基準 授業で学んだ内容を基に、プロジェクト研究を行います。その報告発表(80%)および授業中の課題レポート(20%)などにて総合評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第01回 ガイダンスおよびグループ分け 第02回 GISの導入および位置表示 第03回 データの取得および表示Ⅰ: e-Stat 第04回 データの取得および表示Ⅱ: 国土地理院 第05回 データの取得および表示Ⅱ: 国土交通省 第06回 ファイル形式の理解: csv・txt・dbf形式の理解 第07回 空間分析Ⅰ: 検索と抽出 第08回 空間分析Ⅱ: バッファとクリップ 第09回 空間分析Ⅲ: 融合 第10回 ファイル操作Ⅰ: 結合および演算 第11回 フィールド操作Ⅱ: 結合および演算 第12回 地図の作成とジオ・レフェレンサー 第13回 プリントコンポーザー 第14回 プロジェクト研究のプレゼンテーションⅠ 第15回 プロジェクト研究のプレゼンテーションⅡおよびまとめ			
教科書・参考書等 『観光地域調査法』金徳謙著、美巧社、2,500円(税別)、ISBN: 978-4-86387-075-8			
オフィスアワー 授業終了後。その他にも時間が許す限り対応しますが、事前にメール等でアポイントをとってください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> ・授業では、パソコンを操作しながら、実践的に学習します。毎回自分のノートパソコンの持ち込みが必要です。OSはWindowsを推奨しますが、MacやLinuxなどでもOKです。但し、GISソフトの導入を含む説明は、Windowsを基に説明します。 ・授業の後、内容を繰り返し復習することは欠かせません。とても重要です。 ・観光への応用だけではなく、経済分析やマーケティングなどにも応用が期待されますので、この機会に是非身につけてください。 ・受講希望者は事前に教材を購入するか、第1回の授業で購入してください(2,500円税込)。 			

ナンバリングコード B2SCL-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332071) グローバル社会概論 グローバル化と社会 Globalization and Society	科目区分	時間割 後期末4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B2SCL	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 金澤 忠信	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 世界の文化と社会についてこれから勉強していくうえで、予備知識として必ず知っておくべき用語や概念について解説する。それらの用語・概念の歴史的・社会的背景についてもあわせて考察する。			
授業の目的 グローバル社会・経済を学ぶための基礎的・予備的な知識を得る。私たちが生きている世界の現在の状況と、それに至るまでの歴史的な背景を、具体的な事例から理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
世界の国・地域について、具体的にイメージすることができる。世界の言語、文化、社会の幅広い領域について深い関心を持つ。国際的なことならについて問題意識を持ち、自分に関わる問題として考えることができる。講義で扱った基本的な用語や概念について説明できるようになる。			
成績評価の方法と基準 平常点（授業への参加度をミニレポートで評価）20%、中間試験および期末試験80%により、総合的に評価する。毎回出席をとるので欠席しないこと。無断欠席5回で自動的に「不可」となるので注意すること。中間試験・期末試験いずれも必ず受けること。 ※出席してミニレポート用紙に名前を書くだけでは「平常点」は与えられない。必ず意見・感想・質問などを書いて提出すること。 ※中間試験と期末試験どちらか一方でも受けないと単位は与えられない。 ※しかるべき理由（病気・怪我、忌引、大会参加等）で欠席する場合は、証明書等を添えて欠席届を提出すること。就職活動で欠席する場合も、会社説明会等に出席していたことを証明するものを添えて欠席届を提出すること。 ※なお、適正な収容人数を超えた場合、他学部生の受講制限を行う。H29年度以前の入学者で、地域社会システム学科以外の学生（他学科の2年生以上および他学部生）については、受講人数制限を掛ける。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【学習の方法】 授業は必ずノートを取りながら聴く。配布されるプリント等の資料をしっかりと読み、解説された用語・概念をよく理解する。授業時に紹介される参考文献を読む。			
【授業計画】 (1) 世界の国と地域 (2) 世界の国と言語 (3) 言語と文化 (4) 人種と民族 (5) 世界の宗教 (6) 宗教・社会・経済 (7) 政治体制とその歴史 (8) 国家と国民 (9) 中間試験（試験範囲は第1回～第8回） (10) 経済のしくみ (11) 帝国主義と植民地主義 (12) 越境・移動・グローバル化 (13) 南北問題と東西冷戦 (14) ジェンダーとセクシュアリティ (15) メディアと社会			
期末試験（試験範囲は第10回～第15回）			
教科書・参考書等 各教員が随時指定する。			
オフィスアワー 個別の講義内容については各教員に確認すること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この講義で扱う用語・概念はいずれもごく基本的なものです。そのつどしっかり習得すること。遅刻、途中退出厳禁。			

ナンバリングコード B20TH-abxE-30-Pf2 授業科目名 (時間割コード: 303641) (特) 海外研修 (アメリカ) Special Lecture	科目区分	時間割 後期集中	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B20TH	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 水野 康一	関連授業科目	外国語演習 (英語), 観光英語, ビジネス英語, アメリカ社会論	
	履修推奨科目	Communicative English I, II (全学共通教育)	
学習時間 研修事前指導 30分 ×10回 + 現地研修 8日間 + 自学自習			
授業の概要 年度末の春休み期間中にアメリカの大学(カリフォルニア州立大学フラトン校)において一週間の語学研修を行う(定員15名を教員が引率, 費用は参加者負担)。			
授業の目的 英語運用能力の向上とともに, 将来英語圏への長期留学を実現させるために必要な基礎的知識, 技能の習得をめざす。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 海外において, 日常生活に困らない程度の英語運用能力を身につける。 2) 現代アメリカの社会, 文化, 経済について理解し, 簡単な英語で説明できる。 3) 将来, 留学や海外旅行に自分の力で出かけることができる。			
成績評価の方法と基準 事前指導への参加, 現地英語研修の修了, 団体行動および自由行動において責任のある行動をとること, 提出されたレポートなどにより, 総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 出発前に5時間程度(30分×10回)担当教員より事前指導を受講。現地では, 午前, 大学内の英語研修施設において現地教員の英語指導を受ける。午後はセミナー形式の講義を聞いたり, 現地学生と交流を行う。週末の自由行動(観光)を含めた研修旅行全体についてのレポートを帰国後作成する。 研修プログラムの概要(2018年3月の例)は以下の通り。スケジュール等については変更される場合がある。 第1日 高松空港集合 羽田経由でロサンゼルス着 フラトンまで移動, ホテルにチェックイン 第2日 午前, オリエンテーション, 英語研修 午後 キャンパスツアー, 現地学生との交流会 第3日 午前 英語研修 午後 ヨガ講習 第4日 午前 英語研修 午後 セミナー(アメリカ社会問題), ダンス講習 第5日, 第6日 自由行動(L.A., ディズニーランド訪問など) 第7日 午前 英語研修 午後 大学植物園見学 第8日 午前 英語研修 午後 プレゼン発表会, 修了式, お別れパーティ 第9日 ロサンゼルス空港より羽田経由で帰国(翌日着)			
教科書・参考書等 参加者で協力して, 研修ハンドブックを作成。			
オフィスアワー 木曜3校時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 全学年受講可能だが, 海外旅行未経験の1, 2年生の参加が望ましい。 受講申し込み方法は, 後期に掲示にて案内する。事前に留学ガイダンス, 4月の海外研修報告会, 10月の海外研修説明会(いずれも日時は掲示板にて案内します)に参加し, 情報収集しておくこと。費用は, 前回(2018年3月)の場合, 渡航, 研修, 宿泊, 保険料で計25万円(為替レート, 燃油追加料金等により変動あり)。海外研修説明会の終了後より参加者の募集を行うので, それまでに参加の意思を固めておくこと。なお, 参加希望者が少ない場合, 研修の中止もある。留学生, 他学部生の参加については, 担当教員に相談すること。			

ナンバリングコード B20TH-abxE-30-Pf2 授業科目名 (時間割コード: 303645) (特) 海外研修 (フランス) Special Lecture	科目区分	時間割 後期集中	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B20TH	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 金澤 忠信	関連授業科目	ヨーロッパ社会論、ヨーロッパ文化論、ヨーロッパ思想史、比較近代化論	
	履修推奨科目	フランス語I、フランス語II、フランス語III、フランス語会話、外国語演習 (フランス語)	
学習時間 事前研修 + 自学自習 + 現地でのフランス語研修 (4時間×5日) + 実地見学 + レポート執筆 + 報告会での発表			
授業の概要 ①ツールでのフランス語研修 ②現地での実践的研修 (1) 全体行動 (引率教員とともに) (2) 自由行動 (グループごとに事前に計画を立て、目的をもって自主的に研修) ③事前・事後研修 (1) 事前研修 (フランス語の学習、備知識の習得、自由行動の計画書作成) (2) 事後研修 (研修レポート作成および報告会への参加)			
授業の目的 ツールの語学学校でフランス語の基礎 (語彙・文法) と会話を学び、現地での生活のなかで生きたフランス語を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
現地で買い物をする際にお店の人とフランス語で会話することができる。フランス語研修で友達を作り、その後フランス語で手紙やメールのやりとりをする。			
成績評価の方法と基準 事前研修で作成する企画書 (しおり)、語学学校の修了証書、現地での活動への積極的な参加、研修レポート、報告会での発表			
授業計画並びに授業及び学習の方法 事前研修として、現地での活動の計画を立て、しおりを作成する。 フランス語の授業で学んだことを繰り返し復習し、現地での語学学校の授業に備える。 読む・書くだけでなく、話す・聞く練習も毎日行う。 語学研修の授業では、間違いを恐れず、自分から話すよう努力し、クラスメイトと友達になる。 事後研修として、研修レポートを作成し、報告会に参加して発表する。 日程は、2019年2月末～3月上旬頃、約10日間の予定。			
教科書・参考書等 特になし。			
オフィスアワー 事前に連絡・相談してください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 全学共通科目の「フランス語」を4単位以上取得していることが履修の条件です。 多額の費用 (30万円程度) がかかりますので、あらかじめ計画を立てておく必要があります。 経済学部以外の学生も参加できますが、単位として認定されるかどうかは所属学部を確認してください。 経済学部生が4人以下の場合は、実施されないことがあります。 参加者15名前後を予定していますが、申込者多数の場合、選考を行うことがあります。 研修の日程が追試験期間と重なる場合があります。追試験を受けられなくなるか、あるいは予定どおり研修に参加できなくなる場合もあるので注意してください。 現地での研修を成功させるためには、事前研修が非常に重要です。なるべく毎回参加してください。 危機管理セミナーに必ず出席してください。			

ナンバリングコード B20TH-abeE-3N-Px2 授業科目名 (時間割コード: 303642) (特) 海外研修 (台湾) Special Lecture	科目区分	時間割 後期集中	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B20TH	DP・提供部局 abeE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Px	単位数 2	
担当教員名 高橋 明郎	関連授業科目	アジア社会論、アジア文化論、 外国語演習 (中国語)	
	履修推奨科目	中国文化論	
学習時間 事前研修60分×3回、中国語授業90分×12回、研修報告90分×1回のほか、現地見学研修など8時間。			
授業の概要 本講義は主に香川大学と国際学術交流協定を結んでいる真理大学に於いて行う。中国語入門のレッスンを受けると同時に、真理大学の学生と交流を行い、台湾北部地域の教育文化施設などにおいて見学研修を行う。			
授業の目的 中国語を常用語とする社会で生活し、日本で学習した中国語を実際に運用してみると同時に、現地で中国語の授業を受け、既修事項の再確認をする。(DP「言語運用能力に」に対応。また学生との交流や、見学を通じて台湾の現状や文化について理解する。(DPの「知識・理解」に対応) これらによって、今後の学習意欲を高める。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①台湾での現地体験を通して、中国語を勉強する意欲を向上できる。 ②今まで教室で勉強した中国語を現地で応用する能力を高める。 ③現地語学研修及び現地体験を通して、台湾や中国文化圏に対して視野を広げることができる。			
成績評価の方法と基準 研修先における中国語試験の成績と帰国後のレポートによる。 海外研修報告会における発表は必須。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
出発前の事前研修4時間(課題図書読了を含む)、真理大学での中国語授業(22時間)、見学研修など(8時間)、研修報告(2時間)。 (1)事前研修 台湾の社会経済文化など (2)現地研修(約2週間) 真理大学での中国語研修プログラム 北部台湾における研修見学など (3)報告レポート作成と報告会での発表 なお、細部については、11月頃決定の予定です			
教科書・参考書等 教科書:なし 参考書等:司馬遼太郎『街道を行く』(台湾紀行)朝日新聞社			
オフィスアワー 後期月曜5時間目 高橋研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 中国語を4単位以上修得の者(1年生は前期の2単位を習得し後期開講の中国語を受講している者)が参加できる。経済学部以外の学生も参加できるが、事前に担当教員に相談の上申し込むこと。なお、28年3月卒業予定の学生は、受講することはできるが、単位は出ない。この科目は履修上限の枠外で履修することができる。10月に詳細な説明会を行う。経費は実費を各自負担する。 経済学部の希望学生が4名に満たない場合、全体の参加希望が10名に満たない場合は実施しない可能性がある。			

ナンバリングコード B20TH-abcE-30-Pf2 授業科目名 (時間割コード: 303640) (特) 海外研修 (韓国) Special Lecture	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B20TH	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 宮島 美花	関連授業科目	初修外国語「韓国語」科目	
	履修推奨科目		
学習時間 事前研修参加(複数回実施する)、現地での語学授業と社会・文化体験型授業、研修後のレポート、経済学部行事としての海外研修報告会での報告ほか			
授業の概要 8月の2週間にわたって香川大学の韓国の協定校において韓国語授業と実地研修(社会・文化体験型授業)を行う。			
授業の目的 現地での韓国語レッスンによって韓国語運用能力を向上させ、現地での社会・文化体験型授業を通じて韓国・朝鮮半島の歴史・社会・文化・政治経済への理解を深めることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
韓国現地での韓国語レッスン、および現地での生活、通学・食事・買い物などの行動を通じて、韓国語でのコミュニケーション能力を向上させる。現地での社会・文化体験型授業を通じて、韓国・朝鮮半島の歴史・社会・文化・政治経済への理解・関心を深める。			
成績評価の方法と基準 事前研修の参加態度、研修参加中の参加態度および研修後のレポート等によって成績を評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 香川大学の協定校である聖公会大学(ソウル)の実施する「夏短期研修」に参加する。この研修には、香川大学の学生以外にも、聖公会大学の海外協定校(立教大学、恵泉女学園大学、大阪産業大学や、台湾、香港、マレーシアの大学)の学生が参加する。 以下は、昨年度2017年度のスケジュール(参考)である。 研修先大学: 聖公会大学(ソウル)(香川大学協定校) 期間: 2017年8月5日(土)～8月20日(日) 宿泊: 聖公会大学の校内の寮(食事はつかない)。洗濯施設利用可能。寮費は2人部屋で1日ひとり2万ウォン(約2000日本円)、3人部屋で1日ひとり1万3000ウォン(約1300円)。トイレトペーパー、洗濯洗剤は各人で購入。 食事: 校内のベーカリーや学食、学校周辺の食堂を利用する(各自負担)。 授業料: 91万8000ウォン(約9万1800円) 1日目 ソウル着。チェックイン。 2日目 自由時間 3日目 午前 入学式。韓国語レベルテストとクラス分け。 4日目 午前 韓国語授業。午後 文化体験(サムルノリ体験) 5日目 午前 韓国語授業。 6日目 午前 韓国語授業。午後 交流活動(韓国の学生との交流) 7日目 午前 韓国語授業。 8日目 午前 韓国語授業。 9日目 自由時間 10日目 午前 韓国語授業。午後 文化体験(伝統人形作り体験) 11日目 午前 韓国語授業。 12日目 午前 韓国語授業。午後 交流活動(韓国の学生との交流) 13日目 午前 韓国語授業。午後 文化体験(ミュージカルJUMP鑑賞) 14日目 午前 韓国語授業。午後 修了式。 15日目 自由時間 16日目 チェックアウト。帰国。 ※他にも、航空券代金(約5万円)、空港まで/からの移動費、海外旅行保険費用(必須)、パスポート取得代金、自由時間でやることにあわせた費用やお土産代などがかかる。 ※参加者全員が同じ飛行機の便に搭乗して渡韓・帰国する。 ※経済学部生が4名以上参加する場合:1日目は、担当教員(宮島)が日本の空港でソウル行きのチェックインをサポートし、引率教員の同行はない。ソウルのインチョン空港で、聖公会大学の出迎えを受けて以降は現地スタッフの引			

率を受け、その指示にしたがって行動する。担当教員（宮島）が研修期間中に現地に訪問し、学生たちの研修参加状況を見るほか、現地で参加者たちからの質問や相談などを受け付ける。

※経済学部生が4名以下の場合：1日目は、学生たち自身でソウル行きのチェックインを行う（教員の空港への同行およびチェックインのサポートなし）。ソウルのインチョン空港で、聖公会大学の出迎えを受けて以降は現地スタッフの引率を受け、その指示にしたがって行動する。担当教員（宮島）が研修実施中に訪問しないので、現地でわからないことや相談などは、自分たちで聖公会大学の現地スタッフに申し出ること。

受講申し込みののち定期的な事前研修を行い、渡航に備える。渡航後は、韓国語を集中的に勉強し、修得した韓国語を使って、社会・文化体験型授業に参加し、自由時間を利用して自主的に韓国を見て回る。帰国後は、ただちに担当教員（宮島）に帰国報告を行い、研修で勉強・体験したことをレポートにまとめて提出する（提出期日は別途指示する）。2019年4月の経済学部行事「留学ガイダンス」でパワーポイントを用いて研修報告を行う。

教科書・参考書等

教科書は特になし。韓国語授業の教材は韓国で配布される。

オフィスアワー 随時、相談・質問を受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- 1) 韓国語Ⅰの単位を取得見込み又は取得済みの者で、研修後の後期に韓国語Ⅱを履修予定又は単位取得済みの者。韓国語Ⅰを履修中の1年生から申し込める。
- 2) 渡航前に香川大学が実施する「危機管理セミナー」に参加し、研修後の2019年4月に経済学部行事「留学ガイダンス」において研修報告を行うこと。現地では、聖公会大学教員・スタッフの指示に従うこと。他大学との合同研修なので他大学の研修担当教員にも香大生としてきちんとした態度で接すること。
- 3) 5月に説明会を行うので、参加希望者は必ず参加すること。
第1回説明会 5月14日（月）昼休み12：15～12：45 場所：宮島研究室
第2回説明会 5月16日（水）昼休み12：15～12：45 場所：宮島研究室
同じ内容なのでどちらか1回に出席すればよい。宮島研究室は南キャンパス4号館2階（総合情報センター学生オープンスペースの上の階）。研修参加の申し込み方法や締め切り日は説明会で提示する。

ナンバリングコード B1ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310110) 経済学入門 Introduction to Economics	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 井上 貴照	関連授業科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	
	履修推奨科目	ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ	
学習時間 講義90分×15+自学自習			
授業の概要 今年度は、経済学の基礎理論である「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の基本的な考え方について学修します。この講義では、ミクロ経済学の分野では、市場経済の仕組み、各種の財・サービスの価格がどのように決定されるか、市場均衡と社会的厚生について学修します。マクロ経済学の分野では、国民所得の定義、国民所得の決定そして財政・金融政策や国際貿易と国民所得の決定を学修します。ミクロ経済学とマクロ経済学は、現代経済学の基礎になる分野です。 この講義で学ぶことにより、経済を見る眼を養い、日々の新聞記事や経済ニュースを理解し、これらの諸問題を自分の頭で経済学的に考えることができるようになるでしょう。 この講義では、2年次に学修するミクロ経済学Ⅰやマクロ経済学Ⅰの内容を理解するための基礎知識を修得することができます。 また公務員の採用試験、大学院の入学試験、経済学検定試験や公認会計士の資格取得（経済学は選択）において、ミクロ経済学とマクロ経済学は、特に重要な科目です。			
授業の目的 ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎知識を修得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 経済学の入門的な理論を体系的に修得することにより、経済学的な考え方を修得することができる。 2. 論理的思考力を身につけることができる。 3. 日々の新聞記事や経済ニュースを通じて経済に関する諸問題を経済学的に解明できるようになる。 4. 「経済学検定試験」や公務員・資格試験の問題を解くための勉強ができる。			
成績評価の方法と基準 数回の宿題を課しますが、基本的には中間試験および期末試験を総合して認定します。中間試験を約40%、期末試験を約60%の配分で成績を評価します。中間試験および期末試験においては、A4判の自筆のメモ用紙1枚と定規の持込みを認めます。より詳しい単位認定方法および成績評価については、第1回目の授業で説明します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 授業の進度は、以下のように予定しています。 第1回：シラバスの説明、授業内容を理解するために必要な数学 第2回：経済学とは、？(1)経済学の定義、経済体制 第3回：経済学とは、？(2)経済学の方法論、経済学の規範的側面 第4回：需要・供給と市場経済：市場経済の仕組み、完全競争市場、市場の安定性 第5回：市場均衡と社会的厚生(1)消費者余剰、生産者余剰 第6回：市場均衡と社会的厚生(2)市場均衡と社会的厚生 第7回：市場均衡と社会的厚生(3)規制、物品税、輸入制限と社会的厚生 第8回：中間試験 第9回：国民所得の諸概念(1)GDPとGNI 第10回：国民所得の諸概念(2)国民所得の分配と支出、国民所得の諸概念 第11回：国民所得の諸概念(3)名目国民所得、実質国民所得、物価指数 第12回：国民所得の決定(1)消費と貯蓄、国民所得の決定 第13回：国民所得の決定(2)乗数、インフレ・ギャップ、デフレ・ギャップ 第14回：国民所得の決定(3)自動安定化装置、財政・金融政策 第15回：国民所得の決定(4)国際貿易と国民所得			
【授業の方法】 1. 講義ノート・handout・資料にしたがって説明します。 2. 要点・補足説明を板書します。			
【自学自習に関するアドバイス】 1. 授業終了後に必ず復習して下さい。履修者が復習することを前提に授業が組み立てられています。 2. 授業内容は連続しているので欠席すると理解できなくなることを心に留めておいて下さい。			

教科書・参考書等

1. 教科書：井上貴照(2018)『経済学入門講義ノート』(非売品)

2. 参考書

講義中に紹介します。

オフィスアワー 最終校時終了後(左記の時間以外でも時間の許すかぎり質問に応じます。)

研究室：幸町キャンパス南3号館3階北側

できれば、あらかじめ電話かメールで予約してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

私語は厳禁です。注意しても私語をやめない場合、履修者名簿から名前を削除します。